

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 100-0006
 住 所 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号 日比谷三井タワー
 氏 名 旭化成株式会社
 代表取締役社長 工藤 幸四郎 印
 (代理人) 製造統括本部川崎製造所 所長 山口孝夫
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	旭化成株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区夜光一丁目3番1号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	石油化学系基礎製品		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	67,941	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	50,810	t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
		電話番号	
		FAX番号	
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019年度～2021年度 (報告年度2021年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 177,817 (調) 174,047	(実) 174,997 (調) 171,252	(実) 145,147 (調) 140,972	(実) 180,141 (調) 0	(実) 161,346 (調) 157,576
削減率		(実) 1.6% (調) 1.6%	(実) 18.4% (調) 19.0%	(実) -1.3% (調) 100.0%	(実) 9.3% (調) 9.5%

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

	寄与度				原単位等の単位	-
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度		
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	目標とした値	
排出量原単位等の値	100.0	101.9	96.25	123.6	93.01	
活動量の値	-	-	-	280018	-	
排出量原単位等の削減率		-1.9%	3.8%	-23.6%	7.0%	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	生産状況の変化があり、活動量が減少した。これに伴い、製造所全体の温室効果ガス排出量も若干減少したが、活動量の減少分ほど減ってはならず、結果として原単位が悪化方向となった。	
第2年度	生産状況の変化や生産落ち込みにより活動量は減少した。これに伴って温室効果ガスの排出量が減少したことに加えて、製造プラントの安定運転による蒸気使用量の削減、大定修年(2年に1回)でのエネルギー使用量減少、等によりCO2排出量は前年度に比べて大きく減少した。原単位は昨年度から改善した。	
第3年度	2021年1月よりコジェネレーション設備が稼働開始し、エネルギーバランスが変化(買電・買蒸気の量が減り、都市ガス量が増加)。当設備によりCO2排出量の低減に寄与していると考え。一方で、燃料の使用・廃棄物の焼却によるCO2の考え方を整理した結果、CO2排出量が増加したが、今後この整理した数値を使って管理・評価を行っていく考え。 なお、2021年度にイオン交換膜で川崎メカニズム認証を取得し、その効果により調整後CO2排出量はゼロとなった。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		コジェネレーション設備の稼働開始、適切な運転管理によりエネルギー消費低減に寄与していると考え。一方で、燃料使用・廃棄物焼却の区分けを整理しCO2排出量が増加した。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		・今後もコジェネレーション設備の適切な運転管理を継続し、エネルギー消費削減を図る。 ・以後、2021年度実績を基準として活動展開を図る。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>ISO14001マネジメントシステムに基づき、製造所の実施計画及び各部署の実施計画を定め、温室効果ガス排出量の削減に関する対策を実施する</p> <p>(1) コージェネレーション発電設備の設置(2021年1月稼働予定)により、電力、蒸気の使用量削減を図る</p> <p>(2) アクリル樹脂製造部においてエアコンプレッサー除湿器のヒーターレス化により、電力使用量削減を図る</p> <p>(3) 照明更新に合わせたLED照明への更新により、電力使用量削減を図る</p> <p>(4) フロン類使用機器の低GWP冷媒への更新により、HFC保有量削減を図る</p>
<p>第1年度</p>	<p>(1) コージェネレーション発電設備を計画通り建設中。稼働状況に問題がなければ、今後、エネルギー消費の削減が見込める。</p> <p>(2) エアコンプレッサー除湿器のヒーターレス化は、当初予定より先延ばしとなり、2021年度中に実施をすることとなった。</p> <p>(3) 随時、照明のLED化を実施し、電力の使用量減を図った。</p> <p>(4) 冷凍機、空調機等の低GWP冷媒を使ったフロン機器への代替・更新を推進。</p>
<p>第2年度</p>	<p>(1) コージェネレーション発電設備が2021年1月に竣工、稼働開始した。当設備によるエネルギー消費の削減効果が年間を通じて見られるのは2021年度実績からとなる。</p> <p>(2) エアコンプレッサー除湿器のヒーターレス化は、上記「第1年度」欄に記載の通り、2021年度に着手する予定。</p> <p>(3) 随時、照明のLED化を実施し、電力の使用量減を図った。</p> <p>(4) 冷凍機、空調機等の低GWP冷媒を使ったフロン機器への代替・更新を推進。</p>
<p>第3年度</p>	<p>(1) コージェネレーション発電設備が2021年1月に竣工、稼働開始した。年間を通じて稼働、適切に運転管理を行いエネルギー消費削減に寄与した。</p> <p>(2) エアコンプレッサー除湿器のヒーターレス化は、2021年10月に着手を開始した。</p> <p>(3) 随時、照明のLED化を実施し、電力の使用量減を図った。</p> <p>(4) 冷凍機、空調機等の低GWP冷媒を使ったフロン機器への代替・更新を随時推進。</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>最も寄与度の大きいコージェネレーション設備は、無事に2021年1月より稼働開始した。今後も適切な運転管理を行い、継続的なエネルギー消費削減を進める。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	ヘーベルメゾンの太陽光発電設備にて発電した電力の一部を、川崎製造所(塩浜)の電力として活用を開始した。
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	○	その他()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・低CO2川崎ブランド認定商品 製品名：成形機用洗浄剤「アサクリン」の販売促進
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ①低CO2川崎ブランド、川崎メカニズム認定商品 ・製品名：成形機用洗浄剤「アサクリン」の販売促進 ・2020年度、機能樹脂「ザイロン」の川崎メカニズム応募申請を実施
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ①低CO2川崎ブランド、川崎メカニズム認定商品 ・製品名：成形機用洗浄剤「アサクリン」の販売促進 ・2020年度、機能樹脂「ザイロン」の川崎メカニズム認証を取得 ・川崎メカニズム認証取得の他製品への応募拡大
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ①低CO2川崎ブランド、川崎メカニズム認定商品 ・製品名：成形機用洗浄剤「アサクリン」、機能樹脂「ザイロン」の販売促進 ・2021年度、イオン交換膜「Aciplex F7001」の川崎メカニズム認証を取得 ・川崎メカニズム認証取得の他製品への応募拡大を検討

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・かわさきコンパクトへの参加 ・エコドライブ要請の実施 ・廃棄物の排出量の把握及び削減 ・荷主CO2排出量削減の推進 ・グリーン購入の推進
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブ要請の実施 ・廃棄物の排出量の把握及び削減 ・荷主CO2排出量削減の推進 ・グリーン購入の推進
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブ要請の実施 ・廃棄物の排出量の把握及び削減 ・荷主CO2排出量削減の推進 ・グリーン購入の推進 ・かわさきSDGsパートナー制度に登録 ・かわさきカーボンゼロチャレンジ2050に賛同
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブ要請の実施 ・廃棄物の排出量の把握及び削減 ・荷主CO2排出量削減の推進 ・グリーン購入の推進 ・かわさきSDGsパートナー制度に登録 ・かわさきカーボンゼロチャレンジ2050に賛同

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移(1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源CO ₂ 排出量	177,817 t-CO ₂	174,997 t-CO ₂	145,147 t-CO ₂	129,331 t-CO ₂
原油換算エネルギー使用量	90,125 KL	89,406 KL	75,217 KL	67,941 KL
事業所の数	2	2	2	2

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量(t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所	神奈川県川崎市川崎区夜光一丁目3番1号	170,115	169,339	141,177	125,580
旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所 アクリル樹脂製造部	神奈川県川崎市川崎区浮島町10番9号	7,702	5,658	3,970	3,751

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が500kl以上1,500kl未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量(t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度

8 事業者における基準年度からの温室効果ガスの種類ごとの排出量の推移（4号該当者等）

温室効果ガスの種類	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)				目標排出量 (t-CO ₂)
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	
①非エネルギー起源CO ₂ (②除く)				50,810	
②廃棄物の原燃料使用に伴う 非エネルギー起源 CO ₂					
③CH ₄					
④N ₂ O					
⑤HFC					
⑥PFC					
⑦SF ₆					
⑧NF ₃					